

はじめに

農業を取り巻く情勢は、一段と厳しさを増しており、農業経営はまさに危機的な状況となっています。

そのため、地域農業の担い手の育成・確保はもとより、水田農業の構造改革や雇用型園芸農業の推進、選ばれる商品づくり支援など、農家経営の安定に向けた取り組みを強力に推し進めることが急務となっています。

また、消費者の「食の安全・安心」に対する意識は極めて高まっており、農薬の適正使用の徹底や減農薬・減化学肥料栽培の推進などの取り組みが強く求められています。

これらを踏まえて、当普及指導センターは、農家が希望を持って意欲的に農業に取り組めるよう、以下の5項目を活動の主な柱として、関係機関等と連携しながら課題の解決に取り組んでいます。

- (1) 経営力の高い農業者の育成
- (2) 水田農業の構造改革
- (3) 園芸産地の体力強化
- (4) 安全・安心な農産物づくり及び環境にやさしい農業の育成
- (5) 都市と農村が共生する地域づくり

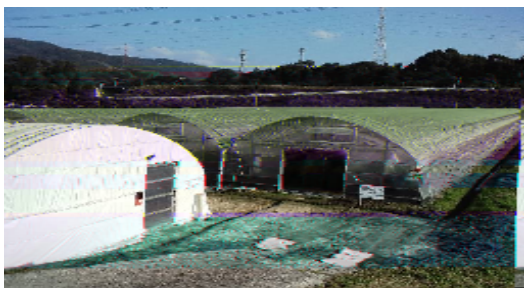
この冊子は、当普及指導センターの取り組みを、農家や関係機関等の方々に広く理解して頂くため、平成23年度の主な活動成果について取りまとめたものであり、地域農業の振興と農家の方々の経営改善の一助になれば幸いに存じます。

平成24年3月

福岡農林事務所福岡普及指導センター長 若菜幹彦

(2)

(4)





10ha

7

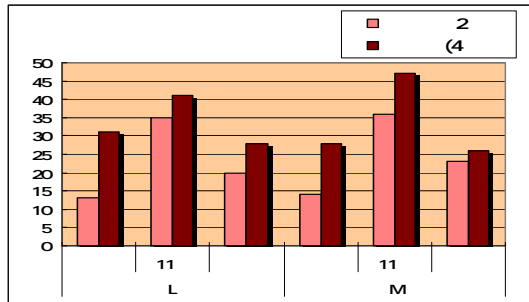
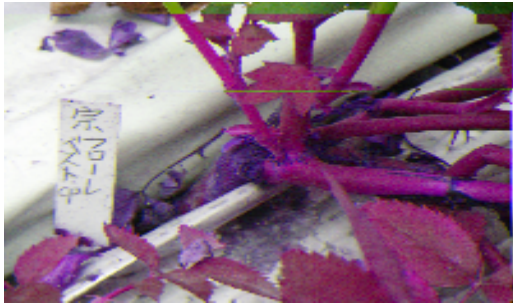


82 33ha



22 24

270a	}	22	827a
180a			
305a			
36a			
36a			
		16	640a



4

3

21 36 45

21 23

23

ha
a
a
a



H21

pH EC

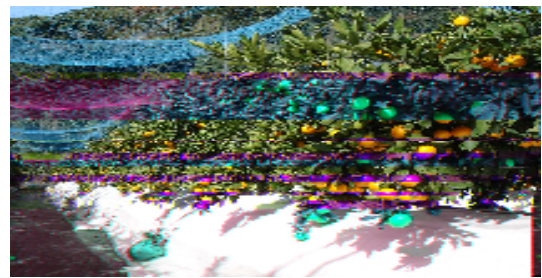
1,400

21

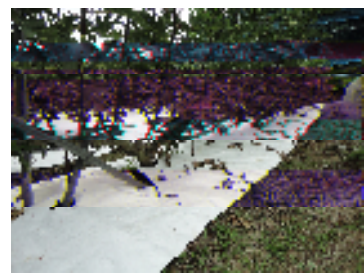
23

. ha

1.2ha



JA
JA

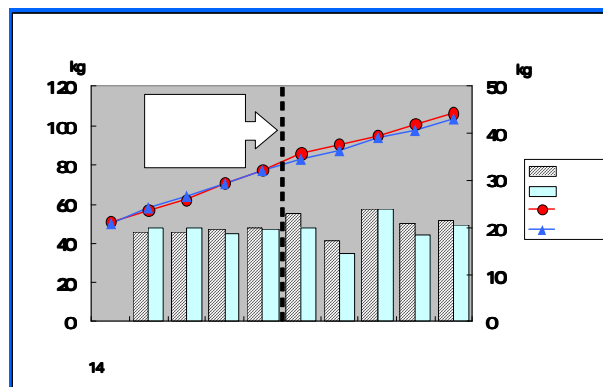


	20		23		
JA	7	65	8	100a	
JA	13	57	12	106a	
JA			2	20a	
	20	122	19	226a	

糸島市内の食品残さ発生量(事業者系)と利用状況

事業者(残さの種類)	発生・収 集量(t/年)	利用量 (t/年)	利用状況		未利用量 (t/年)
			飼料化	堆肥・肥 料	
食品加工(野菜くず)	100	100		100	
うどん屋(食べ残し)	16	16	16		
病院 (調理残さ、食べ残し)	68				68
キャンプセンター (野菜くず等)	410				410
飲料工場(コーヒー、茶 殻)	4,590	4,590		4,590	
豆腐屋(おから)	120	120	120		
収集業者(魚骨等)	312	312		312	
小中学校 (調理残さ、食べ残し)	125				125
計	5,701	5,088	136	4,982	603

JA



19



23

31.7ha

21.1ha

12.6ha

8.6ha

19



9.9ha

7ha



11. 3ha

3. 2ha



10

409. 6kg

280. 4kg

19. 9ha

10. 8ha

t/10a

3

10

408. 3kg

373. 3kg

30a

24



60a

2,840

1,580

22

32

35

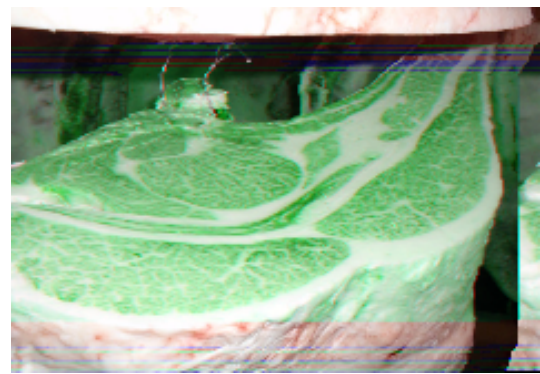
()

320

32

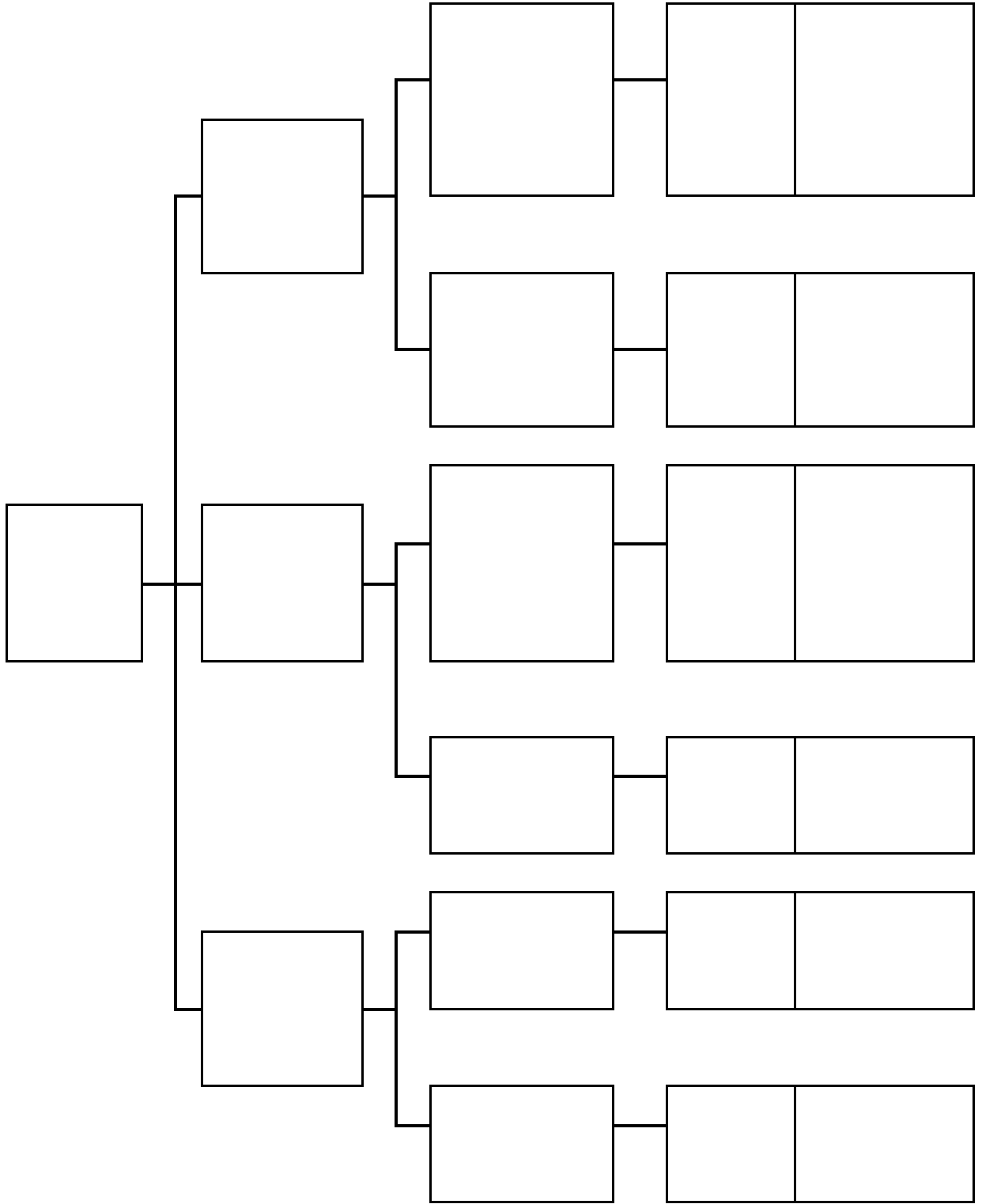
504 4kg A5

75 B&C ()12



136





2 3	